

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100648		
法人名	有限会社 さとほろ		
事業所名	グループホーム さとほろ 4階		
所在地	札幌市中央区宮の森1条6丁目1番16号－401		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和元年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosyoCd=0170100648-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的でな温かい雰囲気の中で、一人ひとりが持つ力や人柄を尊重した支援を一番大切に支援しています。 ・終の棲家として最期まで安全に安心して仲間と暮らせる場であるように、ご家族との絆を深めながら共に支え合う一員として職員は日々努力しています。 ・入居者の方やご家族が満足して頂けるよう、季節行事、外出の機会を多く持って、三人行事(お花見・敬老会・新年会)には多くのご家族の方に参加して頂いています。共に楽しみながら日々暮らしています。 ・家族会があり、面会やご家族同士の交流も多く、支援状況や運営状況についても透明性を持って現状を報告しています。 ・介護職員として働きながら学ぶ機会を持ち、認知症の理解を深めてその人の生活がより良いものとなるように、話し合いを重ねて支援に取り組んでいます。 ・人員体制は入居者の安心と安全のために、又、職員が余裕を持って介護に励めるよう、夜勤は2ユニット3人態勢、日中も3.5人態勢と急な対応にも備えた人員を確保しています。 ・継続した健康管理ができるよう、協力病院との連携、往診医、訪問看護師と24時間連絡体制を整え支援しています。 ・口から食べられることを一番と考え、農家から直接取り寄せた合鴨農法のお米や無農薬野菜を使った食事、おやつも手作りしたり、毎年さとほろ農園で穫れた野菜を使って漬け物を漬けるなど食にこだわっています。 ・一人ひとりの誕生日をその日にお祝いし、家族会からのプレゼントなど家族と共に協力し合い支え合っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	令和元年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前職員で意見を出し合い作り上げた『地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日が過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます。』という理念があり、玄関、スタッフルームに掲示し、毎日の引継ぎ時には唱和しています。会議等でも意識して話し合ってはいますが、職員全員が理念に沿った支援が実践できるようさらに努力したい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物など外出の機会を多くつくり、地域の方へ積極的に挨拶するよう努めています。町内会の行事や近隣保育園の運動会等、声をかけて頂いており、入居者の皆さんと参加して交流の機会を大切にしよう取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学校の実習生や近隣中学校生徒の職場体験学習の受け入れ等、出来る範囲で努めていますが、地域の方々へ向けた取り組みはできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議と家族会を開催し、生活支援状況や事故報告、勤務体制、運営状況等について報告し、情報交換やご家族の意見交換の場となっている。議事録はご家族へ送付し、職員へも内容を周知しサービスの向上に繋がるよう話し合い、取り組みに努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の管理者連絡会への出席、運営推進会議や事故発生時の報告の他、疑問点や不明な点等について相談し、運営状況等の実情を伝えるよう努めています。市主催の研修等にも積極的に参加する機会をつくっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、離所に気付けるように玄関ドアに鈴を付ける等工夫している。今年度より委員会を立ち上げ、定期的に身体拘束について話し合い学ぶ機会を持ち、全職員が外部研修を受けるよう計画、受講し日常的に身体拘束に結びつく可能性についても話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、定期的に虐待防止について学ぶ機会を持ち、外部研修にも積極的に参加し、報告書にて内容を共有している。日々のケアで不適切な対応がないか振り返り、入居者の小さな変色や傷も確認し、記録に残し会議で話し合い防止に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けています。必要な方に情報提供はしていますが、内容の理解について十分とは言えない。 更に制度の理解を深められるよう学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表、管理者が不明な点などの聞き取りをしながら契約書、重要事項等の説明をしています。改定があった時には家族会でも説明し、書面での報告、同意書での確認等、入居後も理解、納得の上、サービスを利用して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から話しやすい雰囲気意識して、本人やご家族の思い・要望を把握するよう取り組んでいます。家族会でも意見や提案を頂き、毎年アンケート調査も実施し、出来る限り反映するよう努め、苦情に関しても公的な受付機関があることも説明し、玄関にも掲示しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社の理念をもとに、会議や面談にて可能な限り要望や提案は聞き取り反映するよう努めています。運営方針や実情からできないこともある。入居者の方の生活や介護職員がゆったりと役割を務められるよう勤務体制の見直しや有休の利用などできる限りの努力はしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も一緒に食事や外出する機会が多くあり、日常的に職員の取り組みや勤務状況の把握に努めている。外部研修も負担のないよう考慮して積極的に参加できるよう機会を設け、勤務体制、人員確保等、働きやすい職場作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の研修を始め、毎月の内部研修、経験年数に合わせた外部研修への参加等、働きながら学ぶ、資格所得に向けての支援など個々のスキルアップに向け取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者連絡会に参加し、年3回行われるスタッフ勉強会には職員ができるだけ多く出席し、交流の機会が持てるよう努めています。近隣のグループホームとは年1回地域行事で交流の機会があるが、相互訪問や活動は十分とは言えない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して暮らせるように可能な限り思いを聞き取り、職員間で情報は共有し不安や要望について信頼関係を築いて早期に対応するよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯を知り、ご家族の不安や思いを受け止め、安心して頂けるよう報告、連絡、相談を重ねて共に支え合う関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関よりグループホームへの入所を勧められ見学相談に至るケースが殆どではありますが、利用できるサービスについての説明はさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添い、ひとりの人として関係を築き、言葉や笑顔に励まされ、教えられたり、気づかされることもたくさんあります。共に暮らしを支え合う一員として、できる力が生かされる支援を意識して取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆を大切に、職員は情報を共有し、安心して共同生活を送っていただけるようにご家族の協力を得ながら日々支援に取り組んでいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会は多く、外食や買い物にも出かけられている。親戚や知人の面会もあり、お盆やお正月に帰郷する方、手紙や電話で遠方の兄弟や知人と交流する機会も仲介して関係継続に向け支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりの病状や性格を理解し、それぞれの関係性に配慮しながら、和やかに談笑する場面をつくり、誕生会では協力してケーキを作って互いに祝い合い、人と関わりながら暮らせる支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居となった時も、お見舞いに行き、看取りを終え退居されたご家族の訪問や差し入れを頂いくこともあり、手紙のやりとりなど繋がりは継続してあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に関わりを意識して、会話や行動、表情などから本人の希望や意向の把握に努め、ご家族からの助言も職員間で共有し、思いや意向に添えるよう取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限り生活歴、嗜好等の情報を聞き取ってサービスを開始し、入居後の生活の中でもご本人やご家族とコミュニケーションを深めて、新たに知り得た事柄も共有し、本人らしく暮らして頂けるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態や会話の中で感じたことや新たな気づきは記録や引継ぎで共有し、現状に即した支援が行われるよう柔軟な対応に向け取り組んでいます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な方には本人からも思いや意向を聞き取り、今後の支援の在り方について、ご家族、医療関係者と相談しながら、担当職員を中心にフロア会議で話し合って介護計画作成に取り組んでいます。意思表示が困難な方には、ご家族の意向をもとに本人の立場になって介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の申し送り用紙に気付いたことや対応の工夫、その結果などこまめに記載し、職員間での情報共有に取り組んでいます。ケアプランを反映した日々の様子を記録し、アセスメント、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応ができるよう可能な範囲で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に入居者の方とゴミ拾いや花壇の草むしりなどの地域や町内会の行事には参加している。中学校の職場体験や実習生の受け入れもあり、近隣のスーパー買い物や外食に行く等、社会と関わる機会を大切に支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、同意があれば協力病院に変更、継続してかかりつけの病院受診を希望される方には、ご家族対応の了解を得て必要な情報提供の支援に努めています。受診が困難になった場合には往診医へ切り替え、病院変更の際には医師からの依頼書を預かり、適切な医療が受けられるよう情報共有し取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護があり、1週間の状況、気になることを各入居者担当が訪看記録に記載し、状況を共有して症状の相談、処置、指示を受けています。特変時にも24時間の連絡体制があり、病院受診・往診が受けられるよう協働しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	協力病院と情報交換を行い、入院時には介護添書を提出し、本人が混乱なく治療が受けられるよう協働体制を整えています。入院中も面会に行き、本人の様子、治療の経過状況を病院関係者と話し合い、早期退院に向け取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で終末期の意向を確認しています。ケアプラン見直しの際や状態に変化があった時には、現状を伝え医療機関とも話し合い、ホームでできることを説明し同意を得ています。全職員が方針や意向を共有して支援できるよう会議で話し合い取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を明確にし、急変時、事故発生時に備え、定期的にフロア会議や勉強会、外部研修等で学ぶ機会を設けていますが、全ての職員が対応できているとは言えないので周知の方法や実践力が見につくよう繰り返し訓練に取り組みたいです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、日中の出火を想定した避難訓練を消防署の指導も受け年2回実施し、勉強会や外部研修でも地震や水害、避難誘導や消火設備等について学ぶ機会をつくり取り組んでいます。マンション全体で消火の実践訓練もあり、食料等の備蓄、毎日の防災点検も行っているが、地域の方との協力体制については更に努力が必要と感じています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に気をつけるよう心掛けてはいるが、慣れ合いから配慮に欠ける言動もあると思います。気になる対応については、職員間で互いに注意し合える関係作りづくりができるよう話し合っていますが、質の向上に向け更に注意して取り組みたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人を理解し、個々に合わせたコミュニケーションの工夫、表情や仕草から思いをくみ取り、話しやすい雰囲気意識して希望や選択ができるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に居室や共有空間で他者と過ごされています。その日の天気でドライブへ出かけることもあり、楽しく過ごしてもらえるよう意識して取り組んでいます。職員の人員等で希望に沿えないこともあります。午前中の体操やレクリエーションは日課として行い、体調や気分に合わせて個別に対応するなど、楽しみや励みにつながる関わりに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった着用ができるよう声をかけたり、介助が必要な方には、好みに合わせた衣類を選んでいきます。好きな色を選んでマニキュアを塗ったり、外出の際にはヘアメイクやお化粧をしてお洒落の支援に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや果物の皮むきなどは一緒にいき、食事の後片付けもできる力に合わせて取り組んでいただいています。季節に合わせた献立やその日の希望を聞き反映し、おやつ、煮豆や小豆、漬物など手作りし、力を活かした支援に努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回栄養スクリーニングを行い、持病の管理をしながらバランスのよい食事の提供に努めています。食事量や水分量は都度記録し、個々に合わせた量や食事形態を検討し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	こまめな水分提供と食後の歯磨きは声をかけ清潔保持に取り組んでいます。必要な方は週1回訪問歯科衛生士による指導や嚥下体操を受けており、職員は指導内容を周知し、毎食後に口腔ケアを支援しています。義歯の具合や歯磨きで気付いたことがあれば、歯科往診を受けて口腔状態を把握しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に一人ひとりの排泄パターンを把握して失敗のないよう食事の前など声をかけ、誘導しています。夜間は居室でポータブルトイレを使用する方もおり、できるだけパット汚染を減らし、トイレやポータブルトイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い野菜の提供、足こぎや運動も取り入れ排便状況を確認しながら便秘予防に取り組んでいます。個々の排便状況を把握しながら、医師の指示のもと内服調整や座薬を使用して排便コントロールに取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を基に入っているが、その日の状況や気分、外出予定等、希望に合わせて入浴支援しています。排泄で汚染した時なども気持ちよく過ごして頂くように臨機応変に対応しお風呂で歌ったり、入浴剤も選んでもらい香りを楽しんでいただくなど支援に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの習慣を考慮して臥床時間を設け、入浴の後や体調に合わせて休息するよう声をかけています。寝る前に皆でテレビを観たり、本を読むなどゆったりとした時間の提供に努め、室温、湿度、掛物等心地よく眠れるよう配慮しています。眠れない時には、声をかけ一緒に過ごし、安心して眠れるように飲み物を提供をするなど支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の都度、申し送りし内容の確認、把握、症状の変化についても適宜、医師、看護師へ報告して適切な服薬に努めています。服薬時には間違いのないよう担当を決めた上、職員間で確認し合い服薬支援に取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業は役割を持って、個々の力を見極めながら行えるように支援しています。好きなビールを飲んだり、体操や脳トレのレクレーション、工作など他者と楽しみながら張り合いのある日々を過ごして頂けるように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や体力に応じて、散歩や買い物、農園での収穫、ドライブ等で外気に触れたり、季節を感じて気分転換ができるよう支援しています。ほぼ毎月季節に応じた外出行事があり、さほろ三大行事（新年会・お花見・敬老会）では、ホテルや回転寿しで、ご家族と共に会食を楽しんでいただいています。また、ご家族とお墓参りや買い物、外食にも出かけられています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方や持っていないと不安になる方にはご家族と相談の上、所持していただいています。基本的にはホームで立替、後日まとめて請求とし、買い物の際には、金額の計算や支払の機会を持つように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人と電話のやり取りもあり、絵ハガキを書いて近況を伝えるなど仲介支援しています。年賀状には個々の写真入りの物を作成してご家族や知人へ送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には日常の写真を飾ったり、季節行事などの装飾で季節や生活が感じられる工夫をしています。玄関には生花を活け、入居者の方が手入れをして下さり、皆で作った作品を展示するなど、家庭的な雰囲気大切にしています。居室や共有空間の整理整頓を心がけ、換気は都度行い、室温、湿度、臭いにも気を付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やテレビ室は狭いが、入居者同士譲り合いながら皆でテレビを楽しんだり、食卓で談笑し過ごされています。気の合う者同士、声をかけ合い互いの居室を尋ねたり、玄関に椅子を置き、外を眺めるなど一人ひとりが自由に過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具やお仏壇、本人の好みに合わせた装飾など、ご家族と相談しながら居心地のよい居室づくりに努めているます。ポータブルトイレを利用する方もいるので、消毒、換気には十分配慮し不快のないよう対応に努めています。身体状況等で環境の見直しが必要な時には本人、ご家族に相談し混乱や危険のない居室づくりに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造的に改装が難しく、洗面所やお風呂には段差がありますが、踏み台、手すりなど必要な場所に設置したり、動線を考えて掴まり歩くことができるよう家具を配置するなど工夫しています。職員と一緒に干しものをしにベランダへ出こともあり、できる力を生かして自立した生活が送れるよう意識して取り組んでいます。		